

番:題名	年月日	人名						
1:玉に分銅								
2:お言葉のある毎に	天保9.10月	おまさ	おきみ(おはる)					
3:内蔵	天保9.10. 26							
4:一粒万倍にして返す		梅谷四郎兵衛						
5:流れる水も同じこと		辻おこよ(忠作の姉)	梶本惣治郎の母	おきみ(おはる)	梶本惣治郎			
6:心を見て	嘉永5年	こかん						
7:真心の御供		西田コト						
8:一寸身上に	文久元年5. 6	辻由松(忠作の長男)	辻おりう(忠作の母)	辻ます(忠作の妻)				
9:ふた親の心次第に	文久3. 7月中頃	榊井キク(伊三郎の母)	榊井伊三郎(先代)	矢追仙助				
10:えらい遠回わりをして	文久3年	山中忠七	山中その(忠七の妻)	芝村の清兵衛(西野?)				
11:神が引き寄せた	文久4. 正月半ば頃	山中忠七						
12:肥のさづけ		山中忠七						
13:種を蒔くので	慶応元年(+6. 18)	前田藤助	前田タツ(藤助の妻)	前田藤次郎(藤助の息子)				
14:染物		こかん	山中忠七	山中その(忠七の妻)				
15:この物種は	慶応2. 2. 7	山中忠七						
16:子供が親のために		榊井キク(伊三郎の母)	榊井伊三郎					
17:天然自然	慶応2・3年頃							
18:理の歌		松尾ハル(市兵衛の妻)						
19:子供が羽根を	慶応3. 正月(+8月)	梅谷四郎兵衛						
20:女兒出産	慶応4. 3月初旬	山中忠七						
21:結構や、結構や	慶応4. 5月中旬	山中忠七						
22:おふでさき御執筆	明治2. 正月	梅谷四郎兵衛						
23:たちやまいのおたすけ	明治4. 正月. 10	松村さく(栄治郎の妻)						
24:よう帰って来たなあ	明治4年	的場彦太郎(大和国仁興村)	的場しか(彦太郎の母)					
25:七十五日の断食	明治5年	松尾市兵衛	松尾ハル(市兵衛の妻)	こかん	飯降伊蔵	櫛枝の与平	秀司	
26:麻と絹と木綿の話	明治5年	松尾市兵衛	松尾ハル(市兵衛の妻)					
27:日出度い日	明治5. 7月	松尾市兵衛	松尾ハル(市兵衛の妻)	松尾櫛蔵(市兵衛の長男)	秀司			
28:道は下から		山中忠七						
29:三つの宝		飯降伊蔵						
30:一粒万倍		飯降伊蔵						
31:天の定規		飯降伊蔵						
32:女房のローフ		松田やす(利平の娘、庄屋敷村・乾家へ)						
33:国の架け橋	明治3. 秋、明治6. 夏	山本利三郎	熊さん(大和の布留)	山本利八				
34:月日許した	明治6. 春	加見兵四郎	加見つね(兵四郎の妻)					
35:赤衣	明治7. 11. 18	西尾ナラギク(榊井おさめ)	榊井マス(村田すま)	仲田かじ				
36:定めた心	明治7. 10. 26(+11月下旬)	増井りん	増井幾太郎(りんの長男)	男衆の為八	増井とみゑ(りんの長女仲田儀三郎)			
37:神妙に働いて下されますな	明治7年	西尾ナラギク(榊井おさめ)	こかん					
38:東山から	明治7年頃							
39:もつと結構	明治7年	西浦櫛蔵(弥平の長男)	村田幸四郎	仲田儀三郎				
40:ここに居いや	明治7年	岡田与之助(宮森与三郎)	岡田ワサ(与三郎の姉)					
41:末代にかけて		仲田儀三郎	仲田吉蔵(儀三郎の孫)					
42:人を救けたら	明治8. 4月上旬(+4. 26)	榎本栄治郎	榎本きよ(栄治郎の娘)					
43:それでよかろう	明治8. 8. 28	こかん						
44:雪の日	明治8・9年頃(+正月. 10)	増井りん	村田イエ(幸四郎の母)					
45:心の皺を		増井りん						
46:何から何まで		秀司						
47:先を楽しめ	明治9. 6. 18	仲田儀三郎	増井りん	まつゑ				
48:待ってた、待ってた	明治9. 9. 24	上田嘉治郎	上田ナライト	西浦弥平				
49:素直な心	明治9・10年頃	林芳松						
50:幸助とすま	明治10. 3月(+20・22・23・24・26・26、明治12年)	榊井キク(伊三郎の母)	榊井マス(村田すま)	榊井伊三郎	村田イエ(幸四郎の母)	村田幸右衛門	村田亀松(幸四郎)	
51:家の宝	明治10. 5月	村田イエ(幸四郎の母)	村田亀松(幸四郎)					
52:琴を習いや	明治10年	辻とめぎく(忠七の娘)	辻忠作					
53:この屋敷から	明治10年	飯降よしゑ						
54:心で弾け	明治10年	飯降よしゑ						

55:胡弓々々	明治10年	上田ナライト	板倉榎三郎						
56:ゆうべは御苦労やった	昭和6・7年頃	井筒貞彦	矢追こう(喜多治郎吉の伯母)	榎井キク(伊三郎の母)	矢追こと(榎蔵の祖母)	矢追惣五郎(榎蔵の父)	矢追なか(榎蔵の母)	辻忠作	
57:男の子は、父親付きで	明治10. 夏(+明治10. 12、明治11. 2月中旬、2. 22-25)	矢追榎蔵	山田与三吉(長造の弟)						
58:今日は、河内から	明治10年頃	山田長造							
59:まつり	明治11. 正月(+明治11. 3. 26)	山中こいそ(山田いゑ)							
60:金平糖の御供	明治11年	上田民造	上田いそ(民造の母)	上田民造	上田おなか(民造の妻)				
61:廊下の下を	明治11. 12月(+明治13. 夏)	山本藤四郎	山本藤五郎(藤四郎の父)	山本しゆ(藤四郎の妻)	山本耕三郎(藤四郎の次男?)	鴻田忠三郎		辻忠作	
62:これより東									
63:目に見えん徳		山本こいそ	辻忠作	山本利八	秀司	増井りん			
64:やんわり伸ばしたら	明治12. 6月頃(+明治20年)	泉田藤吉	前川きみ(喜三郎の長女)	浅野喜市	中山重吉				
65:用に使うとて		仲田儀三郎	東尾						
66:安産	明治12年	前川たけ(喜三郎の妻)	山本多三郎						
67:かわいそうに	明治7年(+明治12年)	抽冬鶴松	山沢為造						
68:先は永いで	明治12・3年頃(+明治14年頃)	平野辰次郎	宮森与三郎						
69:弟さんは、尚もほしい	明治12・3年頃	宮森与三郎	高井猶吉						
70:麦かち	明治13. 3. 5	井筒梅治郎	井筒たね(梅治郎の娘)						
71:あの雨の中を	明治13. 4月頃(+明治14. 正月)	村上幸三郎							
72:救かる身やもの	明治13. 8. 18	村上天三郎	上田ナライト	辻とめぎく	山沢為造				
73:大護摩	明治13. 秋の頃	飯降よしゑ	井筒梅治郎						
74:神の理を立てる	明治13年	中川文吉	井筒梅治郎						
75:これが天理や		井筒たね(梅治郎の娘)							
76:牡丹の花盛り		増井りん							
77:栗の節句		榎井キク(伊三郎の母)							
78:長者屋敷		喜多治郎吉							
79:帰って来る子供		山沢為造	山沢良蔵						
80:あんた方二人で	明治13・4年頃	山沢為造	上原佐吉(佐助の伯父)	上原イシ(佐助の妹、辻川イシ)	上田藤吉				
81:さあお上がり	明治14. 4. 17	上原佐助	梅谷四郎兵衛						
82:ヨイショ	明治14年	井筒梅治郎							
83:長々の間	明治14. 5月	宮森与三郎	山田伊八郎	山中忠七	山本いさ(山田家の分、田中ならぎく)				
84:南半国	明治14. 5. 3	山中こいそ(山田いゑ)	松井忠作(けいの長男)						
85:子供には重荷	明治14年晩春	松井けい							
86:大きなたすけ	明治12年(+明治14. 8月の頃)	岡本重治郎	岡本善六	岡本シナ	岡本栄太郎(善六の長男)	岡本カン(善六の末女、後の加見ゆき)	今田太郎兵衛(小路村)		
87:人が好くから	明治14. 9月	飯降伊蔵	飯降マサエ	飯降政甚	飯降さと				
88:危ないところを	明治14年晩秋	土佐卯之助							
89:食べ残しの甘酒	明治14年	村田イエ(幸四郎の母)							
90:一代より二代	明治14年頃	山沢為造							
91:踊って去ぬのやで	明治14年頃	岡本シナ	梅谷タネ(四郎兵衛の妻)						
92:夫婦揃うて		梅谷四郎兵衛							
93:八町四方									
94:ちゃんとお茶が		立花善吉							
95:道の二百里も	明治14年の暮(+明治15年、3. 5・7)	鴻田忠三郎	宮森与三郎	鴻田りき(忠三郎の娘)	鴻田さき(忠三郎の妻)				
96:心の合うた者	明治14・5年頃	山沢為造							
97:煙草畑		村上幸三郎							
98:万劫末代	明治15. 2. 8	飯降伊蔵	土佐まさ(卯之助の妻)	小西イエ(定吉の妻)					
99:大阪で婚礼が	明治15. 3月	土佐卯之助	森本治郎平	山田いくゑ(伊八郎の娘)					
100:人を救けるのやで	明治15. 3月頃	小西定吉	山田伊八郎	飯降伊蔵	松村栄治郎				
101:道寄りせずに	明治15. 春(+3. 23)	山田こいそ	山田伊八郎						
102:私が見舞いに	明治15. 5. 3	まつゑ	松村さく(栄治郎の妻)						
103:間違いのないように	明治15. 7月	小松駒吉	泉田藤吉						
104:信心はな	明治15. 8月上旬	富田伝次郎	富田米太郎(伝次郎の長男)	藤村じゆん(伝次郎の生母)					
105:ここは喜ぶ所	明治15. 秋半ば	宇野善助	宇野美紗(善助の妻)	山本利三郎					

106: 蔭膳	明治15. 9. 18(+9. 29・30)	梅谷四郎兵衛	初代真柱(真之亮)	梅谷タネ(四郎兵衛の妻)				
107: クサはむさいもの	明治15年	梅谷タネ(四郎兵衛の妻)	梅谷タカ(四郎兵衛の長女、後に春野タカ)					
108: 登る道は幾筋も	明治15年頃(+明治23. 7. 21)	今川清次郎(聖次郎)	井筒梅治郎					
109: ようし、ようし		飯降よしゑ(後に永尾よしゑ)						
110: 魂は生き通し		こかん	秀司	梶本ひさ(後に山沢ひさ)	正善			玉姫
111: 朝、起されるのと		飯降よしゑ(後に永尾よしゑ)						
112: 一に愛想		飯降よしゑ(後に永尾よしゑ)						
113: 子守歌		梶本宗太郎	山沢ひさ					
114: よう苦勞して来た		泉田藤吉						
115: おたすけ一条に	明治13. 3月	立花善吉						
116: 自分一人で		梅谷四郎兵衛	梅谷梅次郎(四郎兵衛の息子)					
117: 父母に連れられて	明治15・16年頃	諸井国三郎						
118: 神の方には	明治16. 正月. 3							
119: 遠方から子供が	明治16. 3月	高井猶吉	宮森与三郎	井筒梅治郎	立花善吉			
120: 千に一つも	明治16. 春頃	山沢為造						
121: いとに着物を	明治16. 4月末(+5月下旬)	山田伊八郎	山田こいそ(伊八郎の妻)	山田いくゑ(伊八郎の長女)	村田長平			
122: 理さえあるならば	明治16. 夏	榊井伊三郎	榊井おさめ(伊三郎の妻、旧西尾ナラギク)					
123: 人がめどか	明治16年	梅谷四郎兵衛						
124: 鮑脣の紐	明治16年	梶本ひさ						
125: 先が見えんものや		中山コヨシ(重吉の妻)	飯降さと					
126: 講社のめどに	明治16. 10月(+明治16. 10. 26)	梅谷四郎兵衛	仲田儀三郎	山本利三郎	梶本ひさ(後に山沢ひさ)			
127: 東京々々、長崎	明治16. 秋	上原佐助						
128: 教祖のお居間	明治16年							
129: 花疥癬のおたすけ	明治16年	今川清次郎(聖次郎)	今川ヤス(聖次郎の長女)					
130: 小さな埃は	明治16年頃	高井猶吉						
131: 神の方には		高井猶吉	宮森与三郎					
132: おいしいと言うて		仲田儀三郎	山本利三郎	高井猶吉				
133: 先を永く	明治16年頃	山沢為造						
134: 思い出	明治16・7年頃	中山たまへ	中山モト(教祖の曾孫)					
135: 皆丸い心で	明治16・7年頃	久保小三郎	久保櫓治郎(小三郎の息子)					
136: さあ、これを持って		仲田儀三郎						
137: 言葉一つ		榊井伊三郎						
138: 物は大切に		仲田儀三郎						
139: フラフを立てて	明治16. 12. 24(+25・29・30)	諸井国三郎						
140: おおきに	明治17. 正月. 20	紺谷久平	村田幸右衛門	紺谷たけ(久平の妻)				
141: ふしから芽が出る	明治17. 3月上旬	深谷源次郎	宇野善助	山本利三郎	沢田	安良		中西
142: 狭いのが楽しみ		深谷源次郎						
143: 子供可愛い		深谷源次郎						
144: 天に届く理	明治17. 2. 27(+3. 10)	鴻田忠三郎						
145: いつも住みよい所へ	明治17. 2月(+2. 25, 3. 11・14)	増野いと(正兵衛の妻)	小山お蝶(弥左衛門の娘)	増野正兵衛	小山弥左衛門			
146: 御苦勞さん	明治16. 春頃	佐治登喜治良						
147: 本当のたすかり	明治15年(+明治17. 夏)	山本与平	山本いさ(与平の妻)					
148: 清らかな所へ		深谷源次郎	藤田某					
149: 卯の刻を合図に	明治17. 秋	土佐卯之助	福井鶴吉	山本利三郎				
150: 柿	明治17. 10月(+23・27)	土佐卯之助	梶本ひさ(後に山沢ひさ)					
151: をびや許し	明治17. 秋の頃	諸井国三郎	高井猶吉					
152: 倍の力	明治17年頃	土佐卯之助						
153: お出ましの日	明治17年頃							
154: 神が連れて帰るのや								
155: 自分が救かって	明治17年頃	森口又四郎(大和国海知村)	森口せき(又四郎の妻)	森口鶴松(又四郎の長男)				
156: 縁の切れ目が	明治16年(+明治17年頃)	松田サキ(大和国五条野村で出生)						
157: ええ手やなあ		梶本ひさ(後に山沢ひさ)						

158:月のものはな、花やで		山本利八				
159:神一条の屋敷		梅谷四郎兵衛				
160:柿選び		榊井おさめ(伊三郎の妻、旧西尾ナラギク)				
161:子供の楽しむのを		榊井キク(伊三郎の母)				
162:親が代わりに		村田イエ(幸四郎の母)				
163:兄弟の中の兄弟						
164:可愛い一杯	明治18. 2. 12	山田伊八郎				
165:高う買うて	明治18. 夏	宮田善蔵	今川清次郎(聖次郎)	井筒梅治郎		
166:身上にしるしを	明治18. 10月	谷岡宇治郎(菅原村)	谷岡ならむめ(宇治郎の娘)	松浦おみつ(菅原村) 辻忠作		
167:人救けたら	明治18. 9. 1(+10. 7. 11. 1、明治19. 正月)	加見兵四郎	加見きみ(兵四郎の長女)	加見つね(兵四郎の妻)		
168:船遊び		梶本ひさ(後に山沢ひさ)				
169:よう似合うやろな		梶本ひさ(後に山沢ひさ)				
170:天が台		梅谷四郎兵衛				
171:宝の山						
172:前生のさんげ		昆布屋の娘(塚の人)				
173:皆、吉い日やで		高井猶吉				
174:そっちで力をゆるめたら		仲野秀信				
175:十七人の子供	明治18年	土佐卯之助				
176:心の澄んだ人	明治18. 12. 26	仲田儀三郎				
177:人一人なりと						
178:身上がもとや		喜多治郎吉				
179:神様、笑うてござる		村田イエ(幸四郎の母)				
180:惜しみの餅						
181:教祖の茶碗		梶本樽治郎				
182:元の屋敷		大浦なか(伝七の妻、大和国笠間村)	加見兵四郎			
183:悪風というものは	明治18・9年頃	林九右衛門(摂津国喜連村)				
184:悟り方	明治19. 正月. 3	梅谷四郎兵衛	梅谷みちゑ(四郎兵衛の次女)			
185:どこい働きに	明治19. 2. 7	山中忠七	山田伊八郎			
186:結構なものを	明治19. 3月中頃(+8. 17. 9. 20・21)	中西金次郎	泉田藤吉			
187:ぢば一つに	明治19. 6月	諸井国三郎	諸井秀(国三郎の4女)			
188:屋敷の常詰	明治19. 7. 26	飯降よしゑ(後に永尾よしゑ)	平野樽蔵			
189:夫婦の心	明治19. 夏	平野樽蔵	平野トラ(樽蔵の妻)			
190:この道は	明治19. 夏	松村吉太郎				
191:よう、はるばる	明治19. 5. 5(+8. 29. 9. 1)	田川寅吉(但馬国田ノ口村)	中山重吉	辻忠作	山本利三郎	
192:トンビトート	明治19年頃	梶本宗太郎				
193:早よう一人で		梶本宗太郎	山沢ひさ(旧梶本ひさ)	中山モト(教祖の曾孫島村国治郎(旧梶本)	梶本ウノ(宗太郎の母)	吉川万次郎
194:お召し上がり物						おまさ
195:御苦労さま		高井猶吉				
196:子供の成人						
197:働く手は						
198:どんな花でもな		清水与之助	梅谷四郎兵衛	平野トラ		
199:一つやで	明治15年(+明治19. 秋)	本田せい(兵神真明講周旋方)	端田久吉(兵神真明講講元)	仲田儀三郎	灘谷すゑ(本田せいの妹)	片岡吉五郎(兵神真明講周旋方)
200:大切にするのやで	明治20. 1. 11・13	紺谷久平	村田幸右衛門	山本利三郎	おまさ	